

ケアの流れ

カウンセリング

ルネッサンス研修マニュアル(P13)に沿って、

カルテの記入・皮膚状態の確認・毛の状態の確認・健康状態と薬の使用の確認を行います。

※カウンセリングの際にVIOの照射可能範囲(粘膜・生殖器部分の照射不可)の説明を行います。

照射準備

① 着替え

施術用のショーツにお着替え顶きます。Tバック(ヒモ)タイプのショーツが適しています。

黒や濃い色の下着の着用はお勧めしません。

② 施術者の手指消毒

VIO脱毛の際には、衛生管理上、使い捨て手袋やマスクなどを準備される事をお勧めします。

③ お客様の皮膚消毒

施術箇所をしっかりと消毒します。精製水や純水は除菌作用がありません。

VIO施術を行う際にはメディアクア(次亜塩素酸消毒液)の使用をお勧めします。

* 詳細は各営業・トレーナーまで

④ 剃毛

基本的には、お客様ご自身に施術の前日に剃毛を行って頂きます。

※剃毛の際には、照射希望範囲よりも1~2cm内側まで剃毛して頂きます。また、残す範囲の毛が長い場合は、前日にお客様ご自身で短く整えて頂きます。

⑤ マーキング

ルネッサンス研修マニュアル(P13)に沿って、マーキングを行って下さい。

出力設定・照射

白い水コットン等で局部を保護し、スパチュラでジェルを塗布します。

ルネッサンス研修マニュアルに沿って、出力設定・照射します。

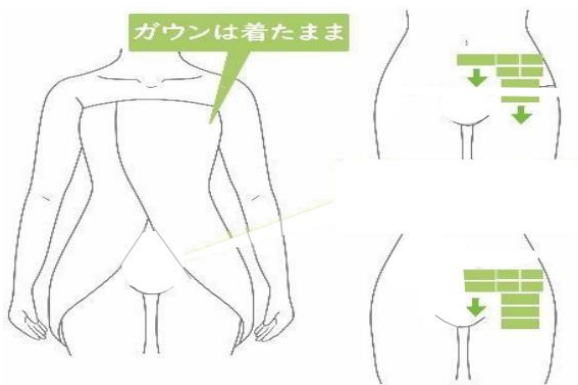
※VIO箇所は身体の凹凸が激しく、照射面が浮きやすい傾向にあります。無理な施術を行わず、肌に密着させて照射を行いましょう。

施術準備物

- ・消毒液(メディアクア：次亜塩素酸消毒液 推奨)
- ・ディスプレイのペーパーシート
- ・VIO施術用シェーバー

01 Vライン脱毛 (ビキニライン)

照射準備・体勢

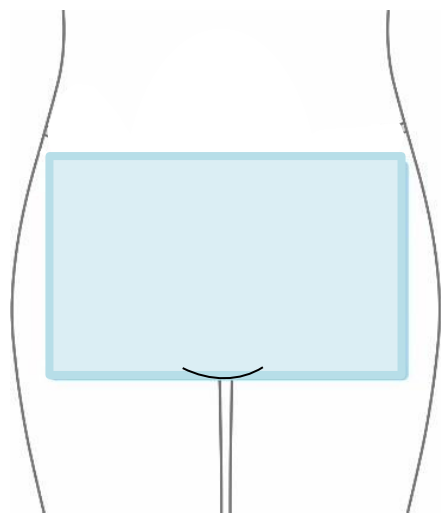


足を肩幅ほどに開き、
腰骨の毛の少ない所から照射に入ります。

毛の濃い中心の部分は、お痛みを感じやすい箇所です。

※肌状態、出力値、密着などを確認して施術します。
お痛みが強い場合は照射面での冷却や凍らない保冷剤などで十分に冷やし照射します。

照射範囲



太ももの付け根付近から、腰骨の高いラインまで。
骨盤の内側範囲を目安に。(必要ならば太もも付け根よりも下も)

出力設定目安 ※初回～2・3回はデリケートゾーン(VIO)の残したい部分もすべて照射します。

| | 初回～2・3回 | 2・3回～ |
|------|-----------|-----------|
| LUNA | B-L1～B-L2 | B-L1～B-L6 |

【注意事項】

- ✓ 剃毛は、前日にお客様ご自身に行ってください。
- ✓ 初回～2.3回は、デリケートゾーン(VIO)の残したい部分も照射します。数回目以降は形を決めて施術します。

Vラインの代表的な形



照射体勢



照射する側の足を片側ずつ外側に『くの字』に開きます。
逆の脚は肩幅よりもやや大きく開きます。

脚に負担が出る場合は、
クッションやタオルを脚の下に置き、支えます。

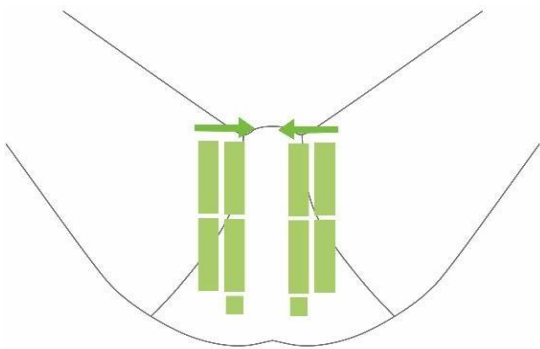
※密着するために身体の凸凹に沿うように照射面を当てます。
密着が難しい箇所等は冷やした水コットン等で照射面を調整して下さい。

※しわが寄り易い、内脚の付け根付近は皮膚を優しく伸ばして照射します。

※実際の施術の際には胸元以外にも足元側にもタオルやブランケットを掛ける事でお客様に安心して頂きます。

※Iラインで当てずらい会陰部周辺は、
Oライン施術の際に当てる事もあります。

照射範囲

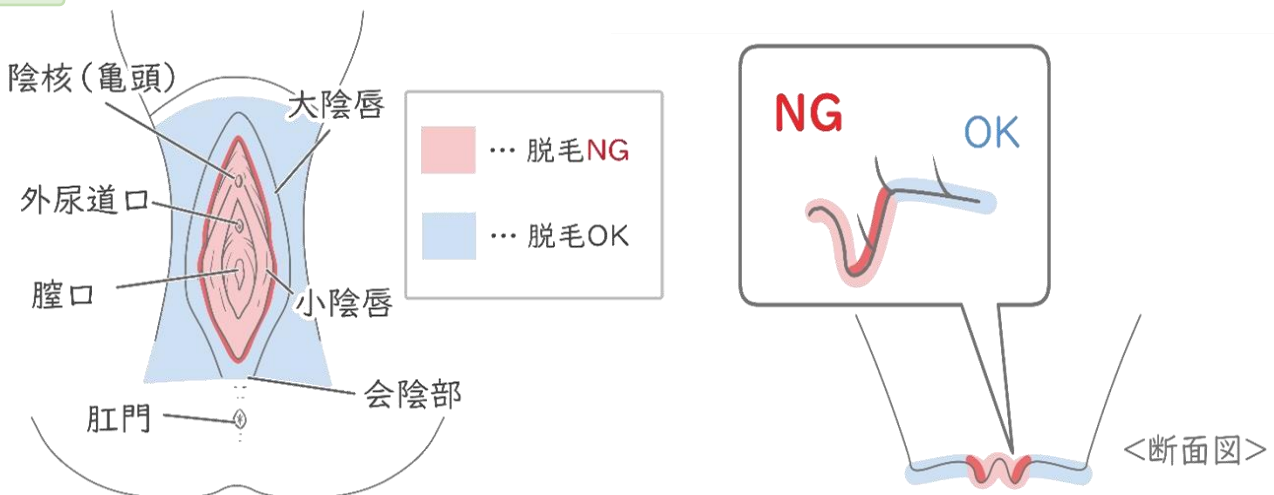


内脚の付け根から外性器付近まで。

(図1の水色部分)

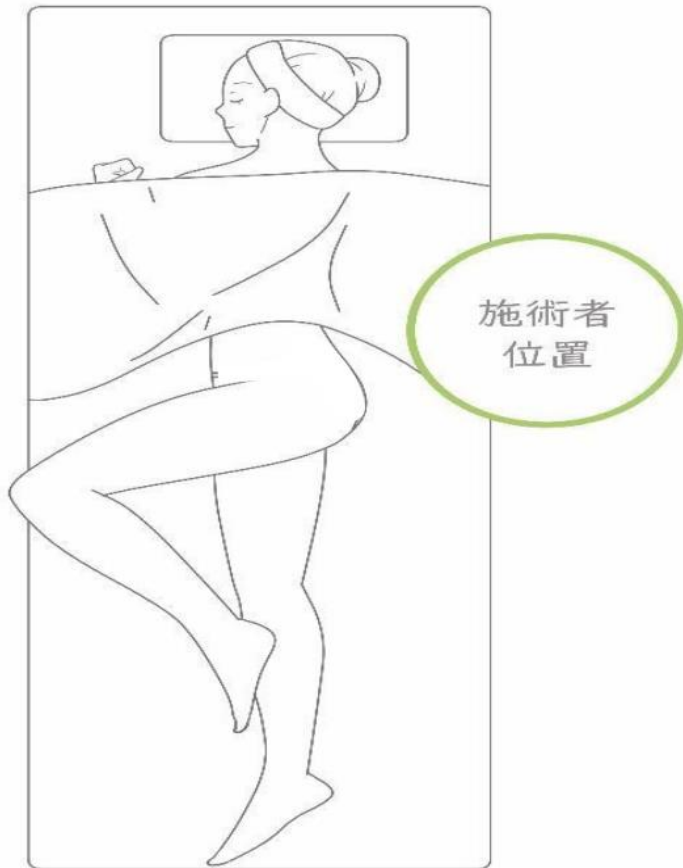
- ✓ ※外性器(尿道線上、小陰唇上、粘膜)は照射禁忌
【図1の脱毛NG 赤色・ピンク部分参照】
- ✓ ※大陰唇と外性器の間の溝は粘膜部分なので照射禁忌
【図1の断面図参照】

図1



照射体勢

横向き



横向きの体勢で照射します。

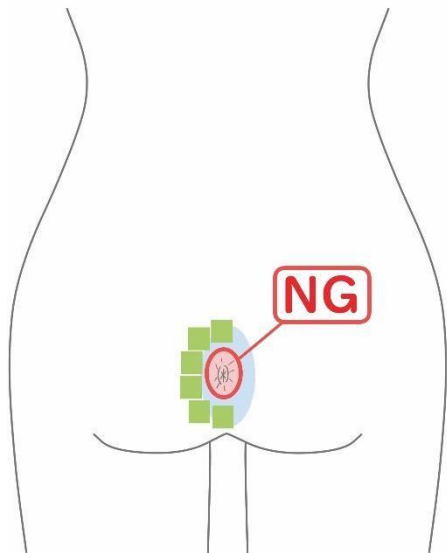
横向きの場合、上側になった脚の膝の部分をお腹の前で抱えるように丸まり抱き抱えます。

肛門部が見え難い場合は臀部を押し広げる様に上下に開きます。

※体格・臀部の大きさによってはお客様にご協力頂き、臀部を持って広げて頂く事もあります。

※実際の施術の際には胸元以外にも足元にもタオルやブランケットを掛ける事でお客様に安心して頂きます。

照射範囲



肛門周り(粘膜部分以外)約5cm程度の範囲。
必要があれば割れ目の部分も照射範囲とする。

✓ ※粘膜部分(肛門近くのシワが寄る部分)は照射NG。